

スクールカウンセラーだより 4

もうすぐ夏休み。子どもたちにとっては嬉しい夏休みですが、親にとっては、なかなか忙しい日々かもしれません。夏休みは特別なイベントよりも、自由な時間を自分らしく過ごせることがポイントのように思います。夏休みをどのように過ごすかで、子どもたちの成長が違ってくるように思います。

様々な経験を重ねていき、自分を見つめる時期にしたい

先日、中学生と話す時間がありましたが、沢山の本を読んでいる子でした。本の内容を聞くと、ロシアの有名な作家の本でした。カウンセラーもその作者の本に挑戦したことがありましたが、途中で諦めてしまった本です。夏休みは、自分を見つめる事ができる時期だと思います。2学期になると子供たちは大きな成長を見せてくれる場合も多いです。特別なイベントや、レジャーも良いですが、読書をしたり、地域のいろんな講座に出てみたりしても良いでしょう。自分の好きな事に挑戦できる時間が取れます。親は「付き添いが大変！」と考えるかもしれませんが、子どもだけの時間にしても良いと思います。いろいろな事にチャレンジさせてあげたいですね。勿論、のんびり好きな本を読むのも良いと思います

子どもが困難な場面でも柔軟に対応できる力を育てたい (レジリエンスについて)

最近、子どもが困った場面で、ぽきっと折れずに柔軟に対応できる力が大切と言われるようになりました。レジリエンスと言われる力で、様々な場面で言われるようになりました。それは「～であるべき」という固い発想から生まれるものではありません。「～だったらいいなあ」ぐらいの柔軟な考え方から生まれるものです。また、その子を支える周りの大人の関わり方の問題とも考えられます。周りの大人が柔軟に対応する事で、子どものしなやかな心が育まれると言われます。人は生まれ持ったものだけではなく、環境の影響を受けるものと言われます。その環境次第でしなやかな心も育まれるものだと言われます。周りの大人は様々な経験から、大切な事を教える事も大切です。でも、柔軟に考えられるような余裕のあるかわりも重要ではないかと思います。

子どもの進路は子ども自身が決めるもの

親は子どもの事が心配で、様々な道を用意します。また、子どもが考えた道を否定する事もあるかもしれません。子どもたちも、失敗させたくないという親の気持ちも理解しています。でも、夢に向かってチャレンジしたいのです。チャレンジする事を否定しないで、丁寧に話を聞いてあげて欲しいです。過去に失敗したからと言ってリベンジするチャンスを奪ってはいけません。

何回失敗してもリベンジすればよいだけ。リベンジせずに失敗経験で終わったら、自信を失うことで終わってしまうでしょう。

子どもたちの中には、親の心配する気持ちもわかるから、自分の思いを言わずに我慢している子も多いです。しっかり思いを聞いてあげる場も必要ですし、何度リベンジしても良い、自分が納得できるまでチャレンジさせてあげたいです。

多様な価値感

道徳の教材の中にジレンマ教材というものがあります。

物事を一面で判断するのではなく「A という方法もある」「B という考え方はどうか」「C はどうか？」という形で、様々な角度から物事を検討していく方法です。

そこでは一つの解答を導き出すことが目的ではなく、様々な考え方があるという事を知り、物事を広く考えられるようにすることが目的になります。つまり、多様な価値観から柔軟な思考につなげていく事が狙いです。

人が何かをしようとするときには、必ず何らかの思いがあります。その思いを様々な角度から考えていけるようにする。思考の幅を広げていく事が重要です。

そのためには、きちんと自分の考えを表現する。そして人の話を聞き、自分で判断するという経験が重要になると思います。

子どもたちの表現

子どもたちの話を聞いていると、ウザイ・キモイ・・・などの言葉をよく聞きます。

少し嫌な場面になると耳にする言葉で、あまり聞きたくはありません。

なぜこんな言葉になってしまうのか、他に表現はないのかなと思うのです。

多分、マスコミの影響もあると思いますが、周りの大人にこんな言葉で言われているとしたら、自分も同じように使ってしまうかもしれませんね。全て否定されている言葉ですね。

子どもたちの言葉は大人の影響が大きいと思います。

大人は日々忙しいですが、やはり落ち着いて話を聞いてあげる余裕を意識したり、大人がゆっくり、丁寧に話をしてあげる事を意識していく事が大切になると思います。

子どもの行動は、自分が受けている行動の裏返しと考えても良いかもしれません。

思春期の子どもたちが使う「普通」「別に」という言葉についても

「普通・・・」「別に・・・」という言葉についても、中学校では良く聞きますね。

思春期に入ると、自分を意識するようになり、他の人と違う事を嫌ったり、自分の意思を表現するのを嫌がる時期でもあります。

また、そこまで深く考えていないので「普通・・・」「別に・・・」という表現になるのかもしれませんが。ただ、相談室で個別に話を聞くと、多くの子はしっかり自分の考えを言ってくれます。

何が違うかと考えたときに、ゆっくりと話を聞ける場、何を言っても大丈夫な場、自分が守られている場という事かもしれません。いつもはあまり話さない子でも、否定せずに、落ち着いて話を聞いてあげるとしっかり自分の意見を言う子が多いです。

夏休みにゆっくりと話を聞いてあげる時間を取ってあげるのも必要かもしれませんね。